

Osaka International Convention Center

Osaka

大阪国際会議場

 グランキューブ便り



| 特集 |

大阪・関西から 世界へ羽ばたく人材を育成。

大阪大学…伝統と総合力で世紀を超えて輝く存在に。

大阪大学平野総長インタビュー

広報誌

2012
創刊号

広報誌「大阪国際会議場 グランキューブ便り」創刊に寄せて—

人・モノ・情報が交流するにぎわいの発信源に。



Yoshihisa Akiyama

株式会社大阪国際会議場
取締役会長 秋山 喜久



Senri Hagio

株式会社大阪国際会議場
取締役社長 萩尾 千里

このたび、大阪国際会議場の広報誌を発刊する運びとなりました。当会議場に関する情報を皆さまにお届けするとともに、ご利用の皆さまのご意見を伺い、よりよい施設運営につなげてまいりたいと考えております。

さて大阪は、古くから中国や朝鮮との交易の要衝として日本文化の形成に寄与してまいりました。また、近世においては、日本全国の物産を取り扱う、人・モノの交流の中心地であり、商工業とともに、文楽や歌舞伎などの豊かな文化の華を咲かせ、大いなる賑わいをみせておりました。

そして、平成6年には大阪の新たな玄関口である関西国際空港が開港し、これを契機に関西における国際交流を加速させようという機運が高まり、官民を挙げて、平成12年に大阪国際会議場を設立いたしました。

開館以来、サミット財務大臣会議や国際エネルギーフォーラムといった国際会議のみならず、コンサートやイベント、展示会も数多く開催され、多くの方にご利用いただいております。

今後、世界では、地域間競争が激化すると言われております。関西が、アジアをはじめとした世界中のの人・モノ・情報の交流の中心地となるためにも、その一翼を、大阪国際会議場がしっかりと担ってまいりたいと考えております。

これからも、この会議場を大いに活用していただき、皆さんにとって素晴らしい出会いが生まれることを願いますとともに、関西・大阪の街の発展に寄与してまいりたいと思います。

大阪国際会議場の広報誌を皆様にお届けするにあたり、ご挨拶を申し上げます。

「水都」「商都」「工業都市」「文化都市」。大阪は、多彩な顔をもった先進都市として発展してまいりました。なかでも堂島川と土佐堀川に囲まれた中之島は、その地勢的な立地とあいまって、これまで幾多の文化、学術、芸術、経済の舞台となり、大阪の文化、経済の中心地として強い発信力を發揮してまいりました。現在多くの経済機能に合わせ、文化施設が集積し、新しい大阪の発展へ向けた中枢機能の一翼を担う街づくり拠点ともいうべき地域と考えております。

バブル経済の崩壊、欧州の金融危機、そして東京一極集中など、大阪を取巻く環境はとりわけ厳しいものがあります。それだけに私どもは国際交流施設を大いに活かし、アジア・太平洋そして世界との交流の窓口を広げることにより、新しい大阪の発展につなげてまいりたいと思います。

官民が協力して建設した大阪国際会議場は、平成12年4月に開業しました。これまで、海外をはじめ各世代にまたがるお客様を毎年100万人近くお迎えし、お蔭様で連日大いなる賑わいをみせております。厚く感謝申し上げる次第でございます。今後は創立時の官民協力の精神を更に深化させ、発信機能の強化、サービス向上に加え、施設の機能強化に努めてまいります。よろしくお願いします。



「広報誌 大阪国際会議場 グランキューブ便り」 創刊おめでとうございます。

国際会議等を始めとしたMICEの振興は、経済効果、国際交流を通じた我が国のソフトパワーの強化、地域の国際化・活性化、訪日外国人旅行客の拡大といった様々な意義を有するものであり、我が国としても積極的に推進する必要があります。

経済的な観点からのMICEの意義は、開催地を中心に大きな経済効果を生み出すのみならず、当該分野のトップを含む多くの海外参加者と国内参加者が交流することで、情報交換はもとより新たな人的ネットワークの構築につながることが期待されます。こうした人的ネットワークの構築は、新たなビジネス機会やイノベーションを創出するとともに、都市のビジネス面における競争力やブランド価値の向上につながることが期待されます。

一方、世界経済のグローバル化、新興諸国を中心とした世界の経済成長等、様々な要因を背景にMICEの需要は着実に増加しており、今後とも拡大傾向にあります。特に、アジア・太平洋地域の成長は大きいと考えられ、韓国、シンガポール、豪州等の主要国がMICEの誘致・開催を国家レベルの戦略として重視し、官民挙げた積極的な誘致活動を展開していることから、域内の競争は激化しております。

MICE誘致には施設単体だけでなく、アフターコンベンションとしての周辺地域のホテルや飲食・物販施設、エンターテイメント施設、地域へのアクセスの要となる空港等の交通インフラ等も含めたMICE開催地としての地域全体の魅力が必要とされます。

アジアの競合都市においては、MICE施設周辺に多様な機能の集積が図られており、同都市のMICE競争力の源泉となっています。

是非、大阪国際会議場におかれましてもMICEの誘致・開催に加え、既存の都市機能集積を活用し、地域レベルでの受入体制を強化することで付加価値を高め、MICE開催地として大阪の総合力を高める役割を担っていただければと思います。



Hiroshi Mizohata

観光庁長官 溝畑 宏

MICEとは

企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体・学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のこと。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。



大阪・関西から、世界へ羽ばたく人材を育成。

大阪大学…伝統と総合力で世紀を超えて輝く存在に。

大阪大学平野総長インタビュー

広報誌『大阪国際会議場』の創刊にあたり、昨年8月、大阪大学の総長に就任した平野俊夫先生を総長室に訪ね、国際社会における大学のあり方、日本の進むべき方向性等などをお聞きしました。

(インタビューは当会議場社長の萩尾千里)



Toshio Hirano

国立大学法人大阪大学総長 平野 俊夫

Profile

1947年、大阪市生まれ。72年大阪大学医学部卒業。73年米国立衛生研究所留学。大阪府立羽曳野病院内科医員、熊本大学助教授、大阪大学助教授、同教授、生命機能研究科長を経て、08年4月同大学院医学系研究科長・医学部長。2011年8月、第17代大阪大学総長に就任。

大阪科学賞、サンド免疫学賞、藤原賞、日本国際賞など数々の賞のほか、スエーデン王立科学アカデミーから、天文学・生物科学などノーベル賞が扱わない科学領域を補完するとされる、クラフォード賞を贈られる。06年紫綬褒章受章。

専門は免疫学。免疫機能の情報伝達に重要な働きをするインターロイキン6(IL-6)を発見、そのメカニズムと自己免疫疾患との関連性を解明。

22世紀にも輝き続ける大学に

萩尾 大阪国際会議場のことを広く一般にも知ってもらうとともに、当会議場をご利用いただいている皆さん情報発信に少しでも貢献することを趣旨に、このたび広報誌を発行することにいたしました。記念すべき第一号には、ぜひ平野総長にご登場いただきたいと思って参りました。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

早速ですが、大阪大学は創立80周年を迎える今後ますます関西にとって大きな存在感のある大学になると思います。総長はこれから大阪大学をどういう方向に持っていくかとお考えですか。

平野 混沌とした世界の中で、現在わが国も大変な状況にあり、大学を取り巻く環境も非常に厳しいものがあります。しかし、この状況には魔法のような解決策はありません。私は、困難なときほど大学は未来を見据え、基本に戻って使命をきちんと果たしていくべきだと考えています。

「国家百年の計は教育にあり」といわれます。大学は本来「学問と教育の府」であり、わが国の将来、人類の将来のために、大学でしかできない学問、つまり物事の本質を見極めるような学問が非常に大切です。さらに、人材育成、特に何が物事の本質であるかを見極める能力のある人材を育てることが、最大の使命だと考えています。

そういう意味で、5年や10年単位ではなく、100年単位の長い視野をもって、大阪大学を日本だけではなく、世界において「22世紀にも輝き続ける大学」にする基盤を築いていきたいと思っています。

萩尾 大阪大学の発祥は医学部なので、医学部は最も伝統があると思いますが、経済学部、工学部もそれぞれ特色があります。それらをどのように活かしていかれますか。

平野 確かに緒方洪庵の適塾が本学の医学部の源流となっていますが、一方で、工学部も古い歴史があります。1896年に、昔の医学部付属病院、今の大坂地方検察庁のあたりに大阪工業学校(後の旧制大阪工業大学)ができ、それが工学部の基になっています。1931年に大阪大学は医学部と理学部の二学部による帝国大学として誕生し、2年後には工学部が加わりました。

戦後、法学部、文学部、経済学部もでき、経済学部や、法学部出身で企業経営者になっている人もたくさんおられます。大阪大学の総合力はなかなかのものだと思っています。

萩尾 基礎科学から実学的な分野、そして地域性という特色もありますね。

平野 大阪帝国大学ができたのは世界恐慌のさなかで、国内も昭和大恐慌の時代でした。すでに京都帝国大学があり、大阪にはそれまで何度か帝国大学をつくる話が出ては消えていま



した。そしていよいよつくろうとしたときは、政府は財政難に陥っていました。大阪大学は帝国大学で唯一、関西財界を始めとする民間の出資100%でできた大学です。そういう意味で、当時から民間の気風が反映され、現在も市民に開放された大学だと思います。产学連携も非常に盛んです。

萩尾 関西財界にも、私も大変親しくしていたサントリーの佐治敬三さんを始め、大阪大学の卒業生には著名な経営者がたくさんおられます。

平野 大阪大学出身の多くの方が、経済界でも非常に活躍しております。

萩尾 基礎科学も盛んで、ノーベル賞を受賞した湯川秀樹さんも、もともと大阪大学で研究しておられましたね。

平野 その前に菊池正士さんが我が国初のサイクロotronの建設に尽力しました。理学部でも素粒子など物理の流れも盛んで、キラリと光る業績がいろいろあります。

萩尾 経済学も、ロンドン大学の教授も務められた森嶋通夫さんなど、個性的な先生がおられますね。

平野 現役では大阪大学社会経済研究所の大竹文雄教授もおられます。

は、1869年に緒方洪庵の次男・惟準が現在の上本町四丁目に開設した大坂医病院です。それが発展して大阪医学校、大阪医科大学となり、医学部の前身となりました。さらに、府立医科大学出身の塩見政次氏（大阪亜鉛鉱業社長）が私財を投じて後の理学部へ発展する塩見理化学研究所が設置されました。最終的に大阪府立医科大学の楠本長三郎学長（第二代総長）と、当時の柴田善三郎知事が協力して、長岡半太郎を初代総長として迎え、1931年に大阪帝国大学ができました。その2年後に大阪工業大学が工学部として加わりました。

適塾は福沢諭吉や大村益次郎を始めとする学者、政治家、軍人などを多く輩出し、彼らは日本の近代化のために活躍しました。

萩尾 緒方洪庵生誕200周年事業で、五代目・緒方惟之氏の話をきました。緒方洪庵は医学者でしたが、何でも勉強していました。杉田玄白が東京で医学だけを教えたのに対し、洪庵は中之島でオランダ語を、長崎と江戸で医学を学びました。当時、アメリカから黒船が来航し、日本は西洋諸国から侵略を受けようとしていました。洪庵は日本が西洋文明から非常に遅れていることを知り、グローバル化を意識して適塾をつくりました。そこから学者や革命家など多くの人材が輩出しました。緒方洪庵は文明開化の旗手であると思います。

平野 そういう意味で、適塾は単に大阪大学の源流というだけではなく、日本一つの中心となって、明治維新で国を建設する大きな力になったと思います。

明治維新にも貢献した適塾

萩尾 大阪大学は歴史的にも、また意識することで伸ばせるという意味でも、緒方洪庵の流れから、感染症や免疫学が特色の一つではないかと思います。

平野 その通りです。そもそも医学の歴史は感染症との闘いでした。歴史を遡ると、ペスト、コレラ、天然痘、インフルエンザなどの伝染病が世界を支配してきました。一旦流行すると何百万人、何千万人が死に、戦争の勝敗までも支配していました。まさに、人類の戦いは感染症との闘いだったと言っても大袈裟ではないと思います。「人生50年」といわれた平均寿命は、天然痘などの感染症を克服したことで大きく伸びました。

緒方洪庵は蘭医で、オランダの医学を積極的に導入しました。その一つとして、日本で初めて幕府が認めた公式の除痘館をつくり、種痘を組織的に普及させました。適塾ができたのは1838年ですが、医学部の原点になったの

免疫学で世界をリード

萩尾 大阪大学は山村雄一先生、岸本忠三先生、審良静男先生らがおられ、免疫学で世界的にも脚光を浴びています。この分野を今後どのように開発していくのですか。

平野 その前に、第五代総長で第三内科の初代教授だった今村荒男先生も、結核、BCGの大家でした。そういう歴史と人のつながりがあって、免疫学は大阪大学の特色の一つとして光り輝くものをつくりました。

免疫は病原菌と共に存しているだけではなく、人間の体を維持するのに非常に重要です。年を取っても元気溌剌としている人は免疫力がしっかりとっています。血管が良くても免疫がだめになると感染症になったり、体の機能がうまく働かなくなつて炎症が起こったりします。関節リウマチは自己免疫疾患ですし、ガンの発生を監視するのも免疫です。年を取つたらガンが増えるのは当然です。今、ガンが急激に増えているのは、血管系の病気や感染症を克服して人が長生きするようになったためです。



これまでの医学は感染症との闘いでしたが、これからは、いかに自然と共生するか、すなわち、老化、病気、死との共生が課題になります。ガンを撲滅するのは難しいので、ガンと免疫とのバランスを取りながらガンと仲良く付き合い、クオリティ・オブ・ライフ(QOL)を高めることが重要です。今の医学はともかく延命はしますが、寝たきりになるなど非常に悲惨な状態で生きているのは大変です。人間はいずれ死ぬので、理想は、苦しまないでいかに天命を全うすることです。

炎症性疾患や動脈硬化など、免疫が絡んでいる色々な病気があります。そういう観点で、今後の免疫学は、病気をうまくコントロールすることによって、QOLを上げることがキーポイントになると 思います。それが究極の医学だと私は思っています。

萩尾 先生としては、今の免疫学の課題はどういうところにあると思われますか。

平野 色々な課題があると思います。重要な課題は、免疫反応を臨床の場でどのようにしたら自由にコントロールできるかという問題です。

萩尾 岸本先生、審良先生、平野先生などノーベル賞の有力な候補は、大阪大学に一番多いという感じがします。免疫学では、世界を相手に大阪大学がトップを走っていますね。

平野 はい。審良教授を中心として、若い人たちもがんばっています。

萩尾 先般、臨床検査機器や試薬などを開発製造する神戸のシスメックスの社長と、中国行きの飛行機で隣席になりました。私が「業績が良いんですね」と尋ねると、「アジアは感染症が非常に多いですからこれから仕事が増えます。」と仰っていました。これからアジアの感染症に対する大阪大学の役割は。

平野 もちろん大阪大学の役割は大きいと思います。アジア地域がどんどん開発され、グローバル化が進むのに伴って他の地域との交流が盛んになると、SARS、エボラ出血熱など過去には局地的だった病気が一気に広がります。そういう意味で、アジアは感染症が多いと言われたのでしょうか。

我々の周りにも病原菌はたくさんありますが、普通は免疫があるので健康でいられます。予防接種は人工的に免疫力をつけるものですが、エイズなどで免疫がなくなると生きていけません。生まれながらに免疫不全の人の多くが、生後一年以内に感染症で死亡します。

グローバルな人材を育成

平野 一方、大阪大学全体としては、アジアの大学や高校と交流して、グローバル化していくたいと考えています。大学院には留学生がけっこういますが、学部は日本の高校を出た学生がほとんどで、留学生は2%もいません。医学部は国家試験などの関係で、さらに少ないので現状です。もっと海外に門戸を開き、特に近隣のアジア諸国、ベトナム、中国、韓国などの優秀な高校生が大阪大学に来るようにならなければいけません。

その中で、お互いが異文化を理解し、尊重し合うことが非常に重要です。それは日本の大學生で言えることです。そうすれば、日本の高校生も異文化に触れる機会が増えます。留学生たちが卒業後、母国に帰ってもいいし、大阪大学の教員になってもいいし、日本企業や外国の企業に勤めてもいいのです。

萩尾 アジアの人たちも含めて、基礎研究と人材育成をグ

ローバルに展開すれば、それが相互関係になってくるということですね。

平野 それは日本の発展だけではなく、人類の平和と福祉につながると思います。世界で紛争や戦争が絶えないのは、宗教や慣習の違いを相互理解していないことが一つの原因です。理想的には、お互いの文化を尊重し合えば紛争はなくなるはずです。そういう人が増えていけば世界はより平和になり、人の交流が盛んになり、経済も発展していくでしょう。世界があつての日本ですので、日本だけが発展するわけには行きません。どこかが一人勝ちすることは、一時的にはあっても長続きしません。

萩尾 そういうことを促進するためにも、もっとアジアから留学生を受け入れるということですね。

平野 急にはできないので、地道に制度設計をしようと思っています。現在1学年に3500人が毎年入学します。そのうち留学生を10%、すなわち350人にすることを目標に、最初は各学部に5人ずつ、全体で50人くらいから始めようと考えています。

医学部、歯学部、薬学部の国家試験は、日本語が壁になっています。そういう意味でも日本語教育は非常に大事だと思います。せっかく日本を選んで留学してくれるのだから、日本語をきっちり学ぶ体制を整え、日本文化を理解してもらいたいと思います。



萩尾 大阪では日本語教育が遅れているのですか。

平野 いいえ、遅れてはいません。大阪はある意味で日本の中心地です。大阪大学の箕面キャンパスにある日本語日本文化教育センターは、全国で共同利用しています。国費留学などオーバーライズされた留学生は、一定期間このセンターで日本語教育を受け、その後、日本全国の大学に入るシステムがあります。ここでの教育を含め、例えば、留学生と日本人の学生を一対一のペアにし、一緒に寮生活させることを計画しています。

企業にも奨学金への協力をお願いしたいと思います。1人に100万円が要るなら、50人で5000万円、4学年で2億円の寄付が毎年集まつたら維持できます。優秀な留学生に日本の魅力を伝えて教育し、卒業後はグローバルに活躍してもらうことが、大阪大学の内部からの国際化だと考えます。関西経済連合会の森詳介会長も、日本企業が留学生を採用するときのネックは言葉なので、大学は日本語教育をすべきだと仰っていました。

大学と地域のポテンシャルを活かす

萩尾 大阪・関西は、医学・医療のインフラをもっと整えていけば、地域活性化に活かせるポテンシャルは相当あります。同時に、グローバル化に伴って、文化と文明の違いを克服し、相互理解を深めていくことが大阪にとって大切だと思います。

平野 どんな組織も、都市も、大学も、また私自身も、過去の歴史があって今があります。そこにポテンシャルがあるのです。それぞれに違うポテンシャルをうまく引き出して活用することが、未来をつくるために非常に重要だと思います。

大阪の一つの特徴は、こんな大きな都市なのに、政治の中心とはいつもかけ離れていたことです。商業を中心に発展した自由で縛られない気風は、大阪大学の特質でもあり、大阪のポテンシャルでもあります。残念ながら企業の東京移転は続いているが、歴史的に見ても、大阪は底力があると思っています。

萩尾 大阪大学は医学を活かせば、大阪の国際化にもつながっていくでしょう。そのポテンシャルを顕在化させる仕掛けとして、これからは行政や経済界との連携が不可欠です。経済界も大学を支援することで、結果として地域や企業の経済発展に寄与できるのです。

大学というのはエンジンだと思います。せっかくエンジンを持っているのだから、ガソリンを供給しなければいけません。

平野 人を育てるということも含めて、行政や企業との連携は重要です。企業や行政はある意味で現在のことについて携わっており、大学は未来のことをしています。未来をつくるための研究や人材育成を、行政や企業が支えていただければと願っています。

萩尾 私たちも微力ながら、そのお手伝いをしたいと思ってい

ます。色々な支援はしますので、大学には知恵を大いに出していただきたい、いろいろな仕掛けができればと思います。

平野 大学側でも組織をつくり、中期、長期的なビジョンで取組みたいと思います。

萩尾 緒方洪庵生誕200周年は、大阪大学だけではなく、日本・アジア太平洋の緒方洪庵生誕200周年として世界から大阪に人を集め、医学のシンポジウムなどをすべきだったと後になって思っています。行政にもそういう知恵がいるでしょう。

平野 私どももこれから、緒方洪庵先生の取り組みとその流れを汲む大阪大学の考え方を広く知っていただこうと考えています。

再生医療の将来

萩尾 これからの再生医療についてどうお考えですか。

平野 基本的に、体は再生するものです。骨は3ヵ月、腸の細胞は5日で入れ替わります。ただその再生能力は、老いとともにどんどん落ちていきます。また、神経系は再生能力が低いので、脊髄損傷になると下半身麻痺など大変なことになってしまいます。京都大学の山中伸弥教授が樹立に成功したiPS細胞などによって、神経の再生もかなり実現に近付いています。それは本来の再生能力をうまく使いながら、人工的な再生を加えるという、人間の限度内での再生です。もし100%の再生が可能になれば、理屈の上では、人間は未来永劫に生きることになります。

萩尾 当社は、大阪大学の様々な取組に対する支援は可能です。これから協力できることがあれば、遠慮なく仰ってください。

平野 国際会議場の立地する中之島に、大阪大学中之島センターがぽつんと建っています。あの周辺を何とかしないといけないと思っています。中之島センターだけで発展するのではなく、地域全体を開発して、そこに大阪大学が入るという発想もあります。

萩尾 2012年秋には、朝日新聞大阪本社や新しいフェスティバルホールが入る中之島フェスティバルタワーも完成しますし、以前は空いていた場所もだいぶ埋まってきています。やはり、中之島を活性化して、知的集積をつくっていくことが重要だと思います。

お忙しい中、長時間ありがとうございました。





広報誌創刊おめでとうございます。

この度は広報誌「グランキューブ便り」創刊おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

これまで、貴国際会議場(グランキューブ大阪)と東京国際フォーラムは、全国で実施しているコンサートやミュージカル、企業の会議や展示会を獲得するため、東西日本の中核的な施設として、お互いに競争と協調をしてきました。

最近のUIA統計暫定値によると、2010年の日本の国際会議開催件数は、世界第2位、アジア首位を記録しました。これからは、日本のMICE推進に向けて、アジア首位を維持するだけでなく、世界首位をめざして、互いに切磋琢磨していきましょう。

よろしくお願い申し上げます。



Kenju Suematsu

株式会社東京国際フォーラム
代表取締役社長 末松 建樹

広報誌創刊をお祝いします。

大阪国際会議場が広報誌「グランキューブ便り」を創刊されると伺い、心からお祝い申し上げます。

貴施設は、西日本におけるMICEの重要な施設として多くの国際会議が開催され、その地位を高めて来られました。近年MICEに関する東アジアの国際間競争は非常に激しくなっており、日本の施設もこの競争に打ち勝たなければなりません。

このたび、貴社が施設の特徴や実績、そして大阪の街をMICE関係者や多くの人に知っていただき、誘致につなげていくために『広報誌』を創刊されることは、時宜を得た取り組みであり、敬意を表するものであります。

今後も貴社が一層発展され、日本のMICEに貢献されることを願って、お祝いの言葉とさせていただきます。



Takashi Kobori

パシフィコ横浜
株式会社横浜国際平和会議場
代表取締役社長 小堀 卓

グランキューブ大阪へのエール。

この度の「グランキューブ便り」の創刊に際し心よりお祝い申し上げます。

大阪国際会議場と国立京都国際会館は、京阪電車中之島線が開通したお陰で隣同士の関係になりました。前者は大阪の中心に位置し抜群の集客力を有し「にぎわい」を作り出す都市型会議場、後者は京都の奥座敷に位置して四季の彩に囲まれ「はんなり」を醸し出す庭園会議場と、その特色を異にします。将来関西広域連合を具体化する過程の中で、大阪、京都、神戸の各国際会議場がそれぞれの個性を生かし連携し合って関西におけるMICE事業を向上させ、シンガポール等のMICE先進国に立ち向かって行こうではありませんか。

「グランキューブ便り」がその一助となるようエールを送ります。



Kishichirou Amae

公益財団法人 国立京都国際会館
館長 天江 喜七郎

大阪国際会議場 広報誌 創刊号に寄せて。

この度は「広報誌」創刊おめでとうございます。

私ども神戸国際会議場は開館以来30年余りが経過し、その間、貴大阪国際会議場をはじめ多くの都市でコンベンション施設の整備が進み、各都市における特徴を活かした誘致の甲斐もあり日本における国際会議の開催件数も大きく伸びています。しかし一方、公的施設の運営方法やさまざまなニーズの変化への対応、危機管理の問題など施設を取り巻く環境も大きく変化しております。厳しい状況が続く中でさまざまな課題を克服するためにも、引き続き、情報交換を密にし、切磋琢磨しながら、より多くの国際会議が日本で、そして関西で開催されるよう取組んでまいりましょう。最後になりましたが、貴国際会議場のますますのご発展をお祈り申し上げます。



Isao Uzaki

財団法人神戸国際観光コンベンション協会
会長 鵜崎 功

株式会社大阪国際会議場について



当社の前身である(株)大阪国際貿易センターは、昭和33年に大阪府と経界の共同出資により、大阪産業の貿易拡充と大阪経済の国際化を推進するために設立されました。昭和35年には施設をオープンし、総合商品常設展示場と催し会場として、産業貿易の振興に貢献してきました。

平成元年、大阪府知事、大阪市長、(社)関西経済連合会会長、大阪商工会議所会頭からなる大阪国際会議場建設推進協議会が設立され、当社(貿易センター)の敷地に、国際交流の中核施設として国際会議場を建設することが決定されました。

その後平成4年には、当社に対して会議場建設の事業主体となる大阪府から、土地の貸与を、平成6年には会議場の運営についての全面的な協力を願いたいとの申し入れがあり、当社は大阪府に対して、経営の健全性を損なわないことを条件に、これを受諾しました。そして平成8年には会議場の建設工事が着手され、平成11年12月に竣工しました。

これを機に、当社は商号を(株)大阪国際会議場に変更し、平成12年4月の開業時から大阪府との間で管理運営業務の受託契約を締結し、平成18年4月からは指定管理者として大阪府立国際会議場の運営を行っております。

開業以来、サミット財務大臣会議や日本医学会総会など、内外の大型会議をはじめ、会社の展示会、各種のコンサートなどに幅広くご利用いただいているおります。

株式会社大阪国際会議場の「企業理念」・「行動指針」

企業理念

大阪国際会議場(グランキューブ大阪)は、世界の人・モノ・情報が行き交う総合交流施設として、国際社会の繁栄と発展に貢献してまいります。

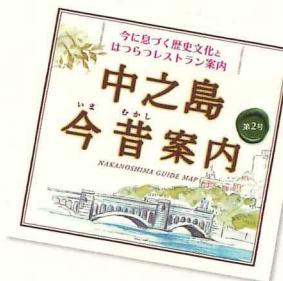
行動指針

- ◎私たちは、社会との共生を心がけ、お客様にご満足いただける、サービスの提供に努めます。
- ◎私たちは、企業の社会的責任を自覚し、法令等遵守のもと、良識ある企業活動に努めます。
- ◎私たちは、公共施設の使命を自覚し、安全で安心な施設運営に努めます。

大阪国際会議場の 地には



大阪国際会議場の建つ中之島には近代的なオフィスビルのほかに、国立国際美術館や大阪市立東洋陶磁美術館、歴史的な建造物にもなっている大阪府立中之島図書館や大阪市中央公会堂、日本銀行大阪支店、また大阪市立科学館など文化施設が集積しています。これらを紹介した地図は、当国際会議場や周辺の駅、公共施設にも備えている「中之島今昔案内」(無料)に掲載しております。一度手にとって、中之島を散策してみてはいかがでしょうか。



江戸時代に天下の台所として栄えた大坂。なかでも中之島には大名諸藩の蔵屋敷が建ち並んでいました。大阪国際会議場の地にも、熊本藩の蔵屋敷が建っていました。また明治初期には日本で初めて洋紙がつくられ、この地は近代製紙業発祥の地となっていました。



Event Topics

多様な催しが開催されました。

第10回 国際ガスターイン会議 大阪大会(IGTC'11 Osaka)

2011年11月13日(日)～18日(金)/10F 会議室(展示)・12F 特別会議場

第10回国際ガスターイン会議が6日間にわたり開催されました。会議では、all Englishで世界各国からの参加者による活発な意見交換が行われ、また展示会場には約40社の企業が出展し、見学者を含め4000人の方が来場されました。また、会議に併せ、「ガスターイン:電力とジェット機のパワーを生む先端技術」と題した公開セミナーが一般市民の方に向けて開催されました。(主催:公益社団法人日本ガスターイン学会)



ビジネス・エンカレッジ・フェア2011 ～東日本大震災からの復興 今、日本の力をひとつに～

2011年12月13日(火)・14(水)/イベントホール

日本の力をひとつにして地域力を高め、日本復興へつなげるためのフェアが開催されました。関西の各大学や公設研究機関による震災復興・新エネルギーなどをテーマにした展示のほか、物産販売コーナーが設けられ、東北三県(岩手、宮城、福島)の名産品・逸品に来場者はその味に堪能しました。また、地震発生直後から復興への過程を収めた写真が展示されました。

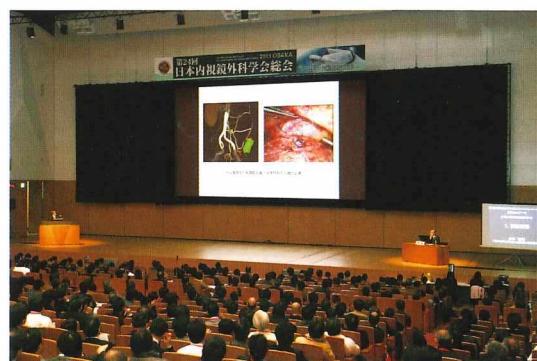
(主催:池田泉州ホールディングス・池田泉州銀行/共催:但馬銀行)



第24回 日本国内視鏡外科学会総会

2011年12月7日(水)～9日(金)/全館

「人類と技術革新の調和」をテーマに、安全で確実な医療と技術の調和(患者により優しい医療、術者に優しい医療)を図ることをめざした、第24回日本内視鏡外科学会総会が3日間にわたり開催されました。一般演題、海外招聘講演、国際名誉会員記念講演、シンポジウムなど1742の演題で熱意の溢れる会議、討論が行われました。(会長:星合 崑 近畿大学医学部産科婦人科学教室 教授)



平成24年大阪新年互礼会

2012年1月4日(水)/イベントホール

大阪府、大阪市、在阪経済三団体(大阪商工会議所、関西経済連合会、関西経済同友会)共催で、毎年仕事始めの日に開催されている新年互礼会が盛大に開催されました。政財界、外国公館関係者、報道機関関係者など各界の代表2300人が参加、大阪の変革と再生への期待を込めた、新しい年のスタートとなる集いとなりました。



Event Calendar

会期	催事名	会場
3月	1(木)・2(金) JACCS PRESENTS 山下達郎 Performance 2011－2012	メインホール
	4(日) CRYSTAL GEYSER presents STARDUST REVUE 30th Anniversary Tour 「30年30曲(リクエスト付)」	メインホール
	10(土) Osaka Prix 第13回クラシックバレエ・コンクール ジュニア 第1部予選	メインホール
	11(日) Osaka Prix 第13回クラシックバレエ・コンクール ジュニア 各部決戦	メインホール
	11(日) 第78回大阪透析研究会	特別会議場 ほか
	13(火) CYNDI LAUPER JAPAN TOUR 2012	メインホール
	14(水)・15(木) スキマスイッチ TOUR 2012 "musium"	メインホール
	17(土)・18(日) 第10回日本フットケア学会年次学術集会	メインホール ほか
	18(日) 第6回市民公開講座 あなたの骨は大丈夫? コツコツ学ぶ骨粗しょう症のお話	イベントホールE
	19(月) イ・ジュンギファンミーティング 2012 Coming Back!	メインホール
	20(火・祝) Mai Kuraki Live Tour 2012 ~OVER THE RAINBOW~	メインホール
	23(金) Def Tech "UP" Japan Tour 2012	メインホール
	24(土)・25(日) Every Little Thing 15th Anniversary Concert Tour 2011～2012 "ORDINARY"	メインホール
	30(金) Salyu Tour 2012 photogenic	メインホール
4月	31(土) Hilcrhyme RISING TOUR 2012	メインホール
	1(日) 2012 ミス・ユニバース・ジャパン最終選考会	メインホール
	8(日) 第9回柔道整復の日記念事業	特別会議場
	17(火)～22(日) 「伝統と創意」'12 日本書芸院展	イベントホール
	25(水) 関西・大阪文化力会議 2012 「21世紀のアジアと関西」	会議室1001～3 ほか
	28(土) 国際ロータリー第2660地区 2012～2013年度地区協議会	メインホール ほか
	29(日) ライオンズクラブ国際協会335-B地区 第58回年次大会	メインホール ほか
5月	12(土)・13(日) 第24回日本アレルギー学会春季臨床大会	メインホール ほか
	16(水)・17(木) 第44回日韓経済人会議	会議室1001～3
	19(土)・20(日) The Echo Live 2012	会議室1001～3
	24(木)～27(日) 第40回「日本の書展」関西展	イベントホール

